



Schaller S-Locks 取り付け方法

この度は Schaller S-Locks をご購入いただき誠にありがとうございます。
こちらでは本製品の取り付け方と使用方法についてご説明いたします。

必ず下記の説明を読んでから楽器への取り付けを行ってください。



セット内容：

① ストラップピン（フェルトワッシャー付き）x2



② ロック本体 x2



③ ロックホイール x2



1. ストラップピンの取り付け方

フェルトワッシャーを付けたまま、ストラップピンを楽器本体へ取り付けます。3mm サイズの六角レンチを使ってねじを締めましょう。

ギター本体にまだ穴が開いていない場合は、穴を開けてから取り付けてください。

ストラップピンは 3 種類の大きさをご用意しています。

XL = 外径 4,5 mm, 谷径 3,1 mm; 長さ 30 mm (別売)

M = 外径 4,0 mm, 谷径 3,0 mm; 長さ 22 mm (セット同梱)

S = 外径 3,5mm, 谷径 2,4 mm; 長さ 18 mm (別売)

- ・ あらかじめギター本体の穴径を確認した上で、適切なサイズのストラップピンを使用することをお勧めします。
- ・ セット同梱のピンと穴の大きさが合わない場合は、別売のピンをご購入いただくか、穴を狭める/閉じる/開け直す/拡張する等の加工を行ってください。
- ・ 塗装クラック防止のために、必要に応じてストラップ穴周辺の塗装をはがしてからピンを取り付けてください。
- ・ クラックに注意しながらストラップピンを取り付けましょう。穴がきついように感じたら、一度ピンをゆるめてから少しずつ穴を広げましょう。
- ・ 逆にスムーズすぎるように感じる場合は、穴を狭めるか、もしくは一度閉じてから開け直しましょう。
- ・ 「手で無理なく締められる」程度の固さを目安に、ストラップピンをボディに取り付けます。無理に力を加えると、塗装やボディそのものが割れてしまう恐れがあります。

ストラップピンがしっかりとボディに固定されているか、時々確かめるようにしてください。ピンのゆるみを感じたら、ネジを締め直す/穴を狭める/開け直す等の対策を行ってください。

※ストラップピンの取り付けは、楽器店やリペアショップなどの専門知識を有する業者へ依頼することを強くお勧め致します。購入者様ご自身で取り付けを行う場合は自己責任の元で作業をお願い致します。

2. ロック本体とストラップの取り付け

ロック本体のねじ部分をストラップの穴に通します。ストラップピンと接続する U 字部分がストラップの内側に、ねじ部分が外側にくるようにします。あとで楽器が U 字部分にしっかりとぶら下がるように、U 字部分の向きに注意しながら取り付けましょう。

ねじ部分に対してストラップの穴が狭すぎる場合は、穴を丸く切り取りましょう。穴の周囲が歪んだままロックホイールを取り付けてしまうと、ロックホイールが固定されず、演奏中に外れてしまう恐れがあります。

3. ロックホイールの取り付け（安全のための 3 ステップ）

- ① ロックホイールを時計回しに締めてロック本体に取り付けます。ロックホイールは**必ず**角が丸まった側を上

に、角ばった側を下にして取り付けてください。

この時にロックホイール側面の小ねじが奥へ締めすぎていると、小ねじがロック本体のねじ山に引っかってパーツを傷つけてしまう恐れがあります。



- ② ロックホイールに斜めにあいた穴に、2mm 径の六角レンチや小さめのドライバーを挿し込んで、より強く締めこみます。



- ① マイナスドライバーを使ってロックホイール側面の小ねじを締めます。これでロックホイールが固定され、ロック本体から外れなくなります。



定期的にネジの締め具合を確認して、ゆるんでいる場合は締め直すようにしましょう。

ロックホイールを外したい時は、最初に小ねじをゆるめましょう。無理やり回そうとすると、ロック本体のねじ山が傷ついてしまう恐れがあります。

4. S-Locks の使い方

ロック本体の U 字部分をストラップピンに取り付けます。カチッと音が鳴って、ロック本体内部のボルトがストラップピンの穴にはまったらセット完了です。楽器本体は U 字型のパーツによって支えられます。

何度かロック本体を引っ張って、きちんと接続されているか確認しましょう。ロック本体の頭部分が下がりきっていて、ストラップピンが勝手に外れてしまわないことを確かめます。

楽器からストラップを外したい時は、ロック本体の頭部分を引っ張りながら U 字部分を横にスライドさせます。



定期的に全てのネジを締め直しましょう。また、各パーツの状態を時々チェックして、接続部分がすり減ったりしていないか確かめましょう。

ストラップとロック本体、ロック本体とストラップピン、ストラップピンと楽器がしっかりと接続されているか、演奏中にも気に留めておくようにしましょう。